
オンライン授業に向けた取り組みの一考察

— 演習(実習)科目での学生の学び —

森川由衣 秋山ゆみ子 清和友美

要旨

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、2020年度前期を全面オンライン授業で行うことになった。例年、演習系授業科目として附属幼稚園との連携を軸にグループでの実習(本学紀要47¹)を計画・実践し、振り返りを行ってきた。授業の学びの主となる実践体験に近づける内容をオンライン授業でどのように行うことが可能であるか、短期間に計画し実践した。

通常は「①打ち合わせ・準備段階」「②実践・観察段階」「③振り返り段階」の3段階で実習体験を行っていたが、今回のオンライン授業では、5段階に分けて行った。

本稿は学生の振り返りレポート・アンケートから演習系の学びをオンライン授業でどのように習得していったかをまとめたものである。結果として、学生は、オンライン授業ならではの学びも多くあったが、子どもや学生・教員と実際に関わりながら今まで当たり前に行われていた授業での学びの本質に気づくことができた。このことは担当教員らも同様であった。

今回のオンライン授業の体験と従来の対面での授業の特長を活かし、今後の授業内容に繋げていきたい。

キーワード：オンライン授業、対面授業、演習系授業

I. はじめに

本稿は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、2020年度前期の授業を全面オンライン授業で行うことになり、例年同様の授業の学びに近づける内容を計画し、学生の学びのプロセスをまとめたものである。本授業(グループ実習)は、演習科目「保育技術演習」(2020年度より「幼児教育の方法と技術」に変更)の授業形態として附属幼稚園との連携を軸に行ってきた複数学生で実践する学内実習である。グループ実習は保育者になるために必要な様々な実習力²(学生レベルの保育力)を育てることをねらいとし、時代の変遷によりカリキュラム内容を少しずつ変更させながらも保育科開設当初より続けられている。今年度は実習力の中の社会人力、特にコミュニケーション力(自分の気持ちや考えを相手に伝える力、他の人の話を聞く力など)をオンライン授業で学生にどのように伝えていくかが大きな課題となった。通常は、「①打ち合わせ・準備段階」「②実践・観察段階」「③振り返り段階」の3段階の実習体験を行っていた。各段階のねらいは、「①担当保育者よりカリキュラムに沿ったテーマを提示され、その内容を聞き取り、そこからグループ内で意見を出し合い、各自の特性を活かして準備していく。」「②実習者は、計画した内容に基づき、実際に子ども達との関わりを楽しむ。観察者は、実習者の保育内容を客観的に観察することで、自分の保育観を考え、新たな学びを得る機会となる。」「③幼稚園でのクラス毎の振り返り、

学内での全体での振り返り，レポートによる各自の振り返りをし，実習者・観察者それぞれの今後に活かせる課題を見つける。」と設定していた。それらのねらいをオンライン授業でも同様の学びに近づけるように計画し，実践した。その実践報告とともに授業内容を考察し，今後の授業へと繋げていくこととする。

Ⅱ. 方法

1) 対象

2020 年度 本学保育科 2 年生 100 名

2) 分析資料

2020 年 6 月 ペア指導案を作成後のアンケート 回収率 99%

※アンケートテーマ

- ①ペアと相談する時はどのような手段をつかいましたか(複数選択可)
- ②その他を選択した人は具体的にどのような手段で行いましたか
- ③指導案完成までにどのくらいの時間がかかりましたか
- ④授業時間外も使った人はどのくらいの時間がかかりましたか

2020 年 7 月 授業最終回の振り返りレポート 回収率 99%

※レポートテーマ

- ①グループ実習の指導案作成から気づいたことや学べたこと
- ②ペアで指導案作成と発表から気づいたことや学べたこと
- ③個人で指導案作成と発表から気づいたことや学べたこと
- ④全体を通しての感想(オンライン授業についても)

Ⅲ. 授業の取り組みと考察

オンライン授業においても今まで同様の学びに近づけるように，下記のような授業内容を計画し，取り組んでいった。その授業の学びについてペア指導案を作成後のアンケート・学生の振り返りレポートを基に考察していく。

○1 段階 「グループ実習の指導案作成」

【授業の取り組み】

動画アプリケーション Google Meet と Google スライド資料(資料1)を用いて説明を行った。

指導案作成の経験が少ない学生に対して，昨年度のグループ実習で使用した指導案(資料2)の「日課とねらい」「実習生の行動・留意点」の欄を参考に，「ねらい」「予想される子どもの活動」「環境構成・その他」の欄を記入し，個々に指導案を完成させていった。授業のねらいとしては，「指導案作成の方法を学ぶ」ことを主として計画した。作成方法は，原則としてパソコンでの作成を予定していたが，インターネット環境が整っていない学生のために，手書きでも作成できる指導案用紙をあらかじめ送付した。また，最後に「過去のグループ実習指導案 原案」(資料3)と「学生が作成したグループ実習指導案例」(資料4)を提示し，比較することで更なる学びへと繋げていった。

資料1 Google スライド資料「グループ実習指導作成の指導」

昨年度のグループ実習の指導案を使って学ぼう！

昨年のグループ実習で先輩たちが実際に考え作成した指導案です。
 あなたもグループ実習で実習するつもりで考えてみてください。

指導案を見て『今日のねらい』と『予想される子どもの活動』を考え、欄に記入しましょう。

『環境構成・その他』についても書き足すことがあれば記入しましょう。

課題に取り組もう！

①『グループ実習 指導案 原本（やり組）』を見て考えましょう。

原本は閲覧のみです。
活動を理解するために8ページすべてに目を通しましょう。

②提出シートを開き、記入してください。

赤枠の中にカーソルを合わせると文字が打ち込めるようになっています。提出シートはやり組①～⑤まであります。

たくさん記入したい場合はフォントを小さくしたりして、調節してください。

※手書きで記入したい人は先日送付された資料に書き込んで良いです。
手書きの場合は、出来上がったら写真を撮り、画像を送ってください。

資料2 「過去のグループ実習指導案に穴埋め方式で作成」

日案〈7月-70實習1回目 4組〉

- 実習日時: 2019年5月9日(木)
- 実習場所: 札幌大谷大学附属幼稚園
- 実習対象クラス: 4組組
- 実習者氏名:

名前を記入

○実習テーマ: おかしな おかしな おかしの国

- 本日のねらい：
- ・ねらいは
 - ・いくつか
 - ・あるといいですね

の決定理由：新しいクラスにはまだ問題もないこの時期に
子どもたちの好きなおかしをテーマにした遊びを
通して、友達と協力することの楽しさ、達成感を
感じてほしいと思ったため。

時間	出席者氏名	予報した内容	発言内容	報告内容
8:16	○大野生吉	記入欄	先日の組合執行役員会にて、1月15日、16日は、原田君が、17日は、整理係に、	記入欄
8:30	○田中秀雄 元会：横濱市会		・豊田君が、17日は、先日の組合会、先日は、整理係に、	

日付	日録とねんろ	予定からずの活動	食育や行事 宛先	環境情報 zone
<p>の上着、羽織も 着た、整理棚 に掛ける。</p> <p>・服を掛ける。</p>		ここに 記入し ていく	<p>洗濯物も干す。衣類 ・靴を洗濯する。干す ・靴を洗濯する。干す ・靴を洗濯する。干す ・靴を洗濯する。干す</p>	<p>その他あ れはここ にも記入</p>
9:00	<p>自由遊び ・保育室やホール 自由に遊ぶ。 ・友達と手遊び 遊ぶ。</p>	小さい フォント で頑 張っ て！	<p>・シルも干す。洗濯物 ・靴を洗濯する。干す ・靴を洗濯する。干す ・靴を洗濯する。干す</p>	
9:50	<p>自由遊び ・絵画・折り紙 ・友達と手遊び 遊ぶ。</p>		<p>自由遊びの準備を 見守る。洗濯 ・靴を洗濯する。干す ・靴を洗濯する。干す ・靴を洗濯する。干す</p>	
	<p>お遊戯 ・お遊戯 ・お遊戯</p>		<p>自由遊びの準備を 見守る。洗濯 ・靴を洗濯する。干す ・靴を洗濯する。干す ・靴を洗濯する。干す</p>	<p>お遊戯に自由 遊び</p>

資料3 「過去のグループ実習指導案 原案」

日案〈保育技術演習グループ実習1回目 4/4組〉

- 実習日時：2019年5月9日(木)
- 実習場所：札幌大谷大学附属幼稚園
- 実習対象クラス：ゆり組
- 実習者氏名：

○実習テーマ: おかしなおかしなおかしな国

- 本日のねらい:
 - ・ ルールのある遊びを通して、友達と協力する楽しさを味わう。
 - ・ おかしの国の世界観を聲かに想像して楽しむ。
 - ・ 月とくびのびのびと遊び、自分を表現する。
 - ・ 遊びの中で、十分に体を動かす。

○設定理由：新しいクラスにふれて間もないこの時期、
各々自分の好きなおかしをテーマにした文
通し、友達と協力することの楽しさ、達成
感にほほえむ思いのため。

[illegible][illegible]

日案〈7月〜9月実習1回目 4月組〉

○実習日時：2019年5月9日(木)

○実習場所：札幌医科大学附属幼稚園

○実習対象クラス：4月組

○実習者氏名：

○実習テーマ：おかしなおかしなおかしな国

○今日のねらい：

・友達と協力することや共に達成感を味わうことの楽しさを体験する。
 ・ゲームの約束事やルールを理解し取り組む。

○設定理由：新しいクラスに馴染む期間もないこの時期に、おかしな国のおかしなゲームを通して遊びを通して、友達と協力する楽しさを味わう。達成感を味わいたいと思ったため。

時間	記録とねらい	予定での子ども活動	実習生がやるべきこと	環境構成と配慮
8:16	○実習者登場	<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px; margin: 0 auto;"></div>	・実習生が集合したら、おかしな国を分ける。	・実習室の机を全て片付ける。
8:30	○国境を塗り、元気に挨拶をする。		・椅子は片方向きにする。 ・椅子の座布巾を敷き入れ、ひとりの整理をする。	・椅子の座布巾を敷き入れ、ひとりの整理をしなう。

時間	目標とねらい	予行の準備と主たる活動	実習の行動・留意点	履修評価の観点
10分	<p>・実習する子どもは、元気で入室が出来る。</p> <p>○設定保育（おねだりおねだりなあれの図）</p> <p>○導入</p> <p>・クッキーの図を1人1人に、その理由をいえる。</p> <p>・図にクッキーの絵を描ける子どもは、どのくらい多いか、自分で数える。</p>	<p>・実習生の話を集中して聞き、自分の名前が呼ばれる時に元気に返事を返す。</p> <p>○実習生の話を聞く。</p> <p>・パティエを見て、聞いた、聞いた様子を見て、どうしたの？と質問したりする。</p> <p>・実習生の問いかけに対して、おねだりをするように言う子どもがいる。</p>	<p>・おねだりの図にクッキーの絵を描ける子どもは、どのくらい多いか、自分で数える。</p> <p>・子どもが自分の名前を呼ぶ時に、おねだりをする。</p> <p>・クッキーの図を1人1人に、その理由をいえる。</p> <p>・図にクッキーの絵を描ける子どもは、どのくらい多いか、自分で数える。</p>	<p>・保育室の奥から、赤、黄、緑の順にクッキーの箱を置く。</p> <p>・実習生は各々の袋を置く。</p>
	<p>●くじ引きをする。</p> <p>・リストバンドをつけてくじ引きをする。</p>	<p>○くじ引きをする。</p> <p>・くじ引きの順番を待つ。</p> <p>・自分から引いたリストバンドの番号を確認し、列に並んで座る。</p> <p>・リストバンドをつけてくじ引きをする。</p>	<p>・くじ引きをする。</p> <p>・くじ引きの順番を待つ。</p> <p>・くじ引きの番号を確認する。</p> <p>・くじ引きの番号を確認する。</p> <p>・くじ引きの番号を確認する。</p>	<p>・くじ引きの番号を確認する。</p> <p>・くじ引きの番号を確認する。</p> <p>・くじ引きの番号を確認する。</p> <p>・くじ引きの番号を確認する。</p>
	<p>●お歌を歌う。</p> <p>・おねだりの図を1人1人に、その理由をいえる。</p> <p>・図にクッキーの絵を描ける子どもは、どのくらい多いか、自分で数える。</p>	<p>○移動する。</p> <p>・円になっておねだりの図を1人1人に、その理由をいえる。</p> <p>・図にクッキーの絵を描ける子どもは、どのくらい多いか、自分で数える。</p>	<p>・おねだりの図にクッキーの絵を描ける子どもは、どのくらい多いか、自分で数える。</p> <p>・子どもが自分の名前を呼ぶ時に、おねだりをする。</p> <p>・クッキーの図を1人1人に、その理由をいえる。</p> <p>・図にクッキーの絵を描ける子どもは、どのくらい多いか、自分で数える。</p>	<p>・くじ引きの番号を確認する。</p> <p>・くじ引きの番号を確認する。</p> <p>・くじ引きの番号を確認する。</p> <p>・くじ引きの番号を確認する。</p>
	<p>●クッキーの図を1人1人に、その理由をいえる。</p> <p>・図にクッキーの絵を描ける子どもは、どのくらい多いか、自分で数える。</p>	<p>○移動する。</p> <p>・円になっておねだりの図を1人1人に、その理由をいえる。</p> <p>・図にクッキーの絵を描ける子どもは、どのくらい多いか、自分で数える。</p>	<p>・おねだりの図にクッキーの絵を描ける子どもは、どのくらい多いか、自分で数える。</p> <p>・子どもが自分の名前を呼ぶ時に、おねだりをする。</p> <p>・クッキーの図を1人1人に、その理由をいえる。</p> <p>・図にクッキーの絵を描ける子どもは、どのくらい多いか、自分で数える。</p>	<p>・くじ引きの番号を確認する。</p> <p>・くじ引きの番号を確認する。</p> <p>・くじ引きの番号を確認する。</p> <p>・くじ引きの番号を確認する。</p>

- ・自分で考えた指導案ではなかったので子どもの姿を予想するのがとても大変でした。
- ・予想される子どもたちの活動などが、先輩の予想したとおりに書かなくてはならないような気がしてしまい少し難しかった。

060 オンライン授業に向けた取り組みの一考察

これらのことより、ねらいとしていた「指導案作成方法」を基礎から個々に学ぶことができ、指導案を作成する上で細かな点まで考えていく必要性を認識できたと考える。また、他の学生が立案した指導案に沿って自分の考えを記述する難しさを感じていた点については、動画や写真等を用いた説明をすることで、指導案の内容への理解を深め、情景のイメージを膨らませることもできたのではと考える。

○2段階「ペアで部分実習指導案の作成」、3段階「ペアで部分実習指導案の発表」

【授業の取り組み】

学生のペア・対象年齢・テーマ(『ゲーム』『リズム遊び』『製作』から一つ)を指定した。ペアによる取り組みについては、立案する中で傾聴力(相手の意見を丁寧に聴く)・柔軟性(意見の違いやお互いの立場を理解する)等のコミュニケーション力が養われていくことを目的として担当教員らが組み立てを行った。発表時には、他の対象年齢・テーマの指導案の内容も学べるように配慮していった。授業のねらいとしては、「指導案を作成する中でコミュニケーション力を養う」ことを主として計画した。

2段階の「ペアによる部分実習の指導案作成」時、連絡手段として、LINEや電話等の学生が使用しやすい方法をとること、指導案の作成は、原則としてパソコンでの作成を予定していたが、インターネット環境が整っていない学生もいるため、こちらも1段階目と同様にあらかじめ送付した手書きでも作成できる指導案用紙を使用することも提示した。取り組み方については、動画アプリケーション Google Meet と Google スライド資料(資料5)を用いて説明を行った。

3段階の「発表」は、動画アプリケーション Google Meet を使って行った。学生は5分間で立案した内容を発表し、その後、担当教員より講評を行い、他の学生は、発表を見て、感想(気づいたこと・学んだこと)を提出した。また、担当教員からの助言(アドバイス)を基に、指導案を再考案し、提出した。

最後にペア部分実習指導案例(資料6)を提示し、更なる学びへと繋げていった。また、指導案作成にあたっての相談手段・所要時間のアンケート(資料7)を行い、今後の分析資料とした。

資料5 Google スライド資料「ペアで部分実習指導案作成の指導」

～ペアで指導案を考えよう～

- 2人で相談して30から45分の活動を考えて指導案を作成しましょう。
- テーマ、年齢に合った活動、子どもの動きも考えながら楽しめる活動を考えましょう。
- 活動は2人で進めていきます。チーム保育のように進めるイメージで指導案を作成してください。
- 出来上がった指導案は後日発表(内容説明程度)してもらいます。

テーマ

- テーマは『ゲーム』・『リズム遊び』・『製作』です。
- 資料で担当ペア、テーマ、年齢を確認し、ペアの人と連絡を取りながら進めてください。
- 連絡はできる限り会わずにgoogle mail、line、その他でしてください。
- ※2人で考えても指導案を作成する(打ち込む)のはどちらか1人になるかもしれないので指導案を作成しなかった人は発表をしてください。
- もちろん2人で半分ずつ書いても良いです(二人で半分ずつ記入し、作成した場合は、発表する人を相談して決めてください)。

資料6 「ヘア部分実習指導案例」

①初回提出版

6月16日(火)	3歳児 あんず組 25名	主な活動	かたつむり作り
ねらい	・様々な素材を使って自由に発想する楽しさを感じる。 ・みんなで一つのものを作る楽しさや達成感を味わう。	内容	・紙皿をかたつむりの甲羅に見立て、様々な素材を使って装飾する。
時間	環境構成	予想される子どもの活動	保育者(実習生)の援助・配慮
10:15	別紙 絵①参照 【準備するもの】 ・ペーパーサート(カエル、ミミズ、てるてる坊主、命はパーティーの衣装を着ている。カタツムリは何も着ていない。) ・ダンボールに25匹のカタツムリの絵が描かれた模造紙を貼った物	・実習生の真似をしながら手遊びをする。 ・「カエル!」「ミミズ!」「命はてるてる坊主!」など思い通りに発言をする。 ・「カタツムリ!」「なんか泣いてる」等 発言をする。 ・実習生の話を聞く。 ・カタツムリに注目する。 ・「手伝う!」「いいよ〜」等 発言をする。	○導入 手遊び「あめぼん」 ・子どもが参加しやすいように、大きな声と動きを心がける。 ・雨の日のお友達のカエルペーパーサートを1つずつ出し、「この子は誰かな」と問いかける。 ・最後に泣いている顔のカタツムリのペーパーサートを出す。 ・カタツムリ役の実習生が、今夜行われるパーティー(雨の日のお友達が集まるパーティー)のために準備を頑張る。かたつむりとして楽しんで話し、それを聞いた実習生が子ども達に手伝ってくれるか聞く。
10:25	別紙 絵②参照 【準備するもの】 ・のり ・紙皿25枚+予備10枚 ・装飾材料(折り紙、線、フラワーペーパー、毛糸をテーブルごとにあらかじめ分けておき、箱に入れておく。)	・どのようなものを作るか想像する。 ・のりを取りにくい。 ・自分の順番が来るまで待つ。 ・説明を聞く。 ・材料に注目する。 ・「分かった」と言ったり、聞く。 ・配られたテーブルの子から製作を始める。 ・材料は全員が取りやすいように机の真ん中に置く。 ・手が止まっている子もいる。	○製作 ・実習生が完成品の見本と25匹のカタツムリの絵が描かれた模造紙を見せ、紙皿がカタツムリの甲羅であることと理解してもらう。 ・テーブルごとに子どもとお道具箱からのりを取りにいくよう伝える。 ・全員がのりを取り着席したのを確認し、製作の説明をする。 ・材料の説明と、製作の約束事を伝える。 約束: ・材料はみんなで仲良く使う。 ・使わない材料は箱に戻す。 ・時計の長い針が9を指したら製作を終える。 ・テーブルごとに紙皿と紙皿を配る。 ・「可愛いね」「かっこいいね」等声をかけながら、子ども達の製作を見る。 ・手が止まっている子には少しアドバイスをしたり、自由に製作できるような声をかける。

10:40	・紙皿を破く子がいる。 ・作り終えた子がいる。 ・作り終えた子は絵を描いて待つ。 ・どんな子作り終える子が出てくる。	・紙皿を破いてしまった子には予備を用意する。 ・作り終えた子には、「上手にできたね」と褒めたり、「ここも少し何かつけた方がかっこいいかもよ?」とアドバイスをする。 ・お道具箱からスクラップブックを取ってきてもらい、絵を描いて待つよう伝える。 ・終了5分前になったら、もう少しで終わりだということを伝える。
10:45	・製作を終了し、実習生の話を聞く。 ・手を止めない子もいる。 ・「できたー!」「○○ちゃんの手が可愛い」等自由に発言をする。 ・呼ばれた子は、紙皿を模造紙に貼りに行く。 ・早く貼れるように、あらかじめ模造紙の甲羅を貼る部分に両面テープを貼っておく。 ・貼った後立ち歩いている子がいる。 ・待っている子は、友達が貼っている様子を見る。	○ゲームを終了する。 ・長い針が9になったことを伝える。 ・手を止めない子には、「最後にこれ貼ったらおしまいにしようね」等声をかける。 ・「みんな上手にできたー?」と聞き、見せあったり感想を言い合ったりして共有する。 ・実習生が模造紙を貼ったダンボールをええ、テーブルごとに模造紙のカタツムリの甲羅部分に、紙皿を貼りに来てもらうよう伝える。 ・上手に貼れない子がいたら援助しながら一緒に貼る。 ・座に居て待つよう声をかける。 ・座って待つ子には「ちゃんと待っていて偉いね」と褒める。
10:55	別紙 絵③参照 ・座に座り、実習生の話を聞く。 ・完成した模造紙を見て喜ぶ。 ・カタツムリ連に「どういたしまして」と言ったり、「ババァー」と言ったり手を振り、見送る。 ・「良かった〜」「パーティーで何するんだろう?」等それぞれ自由に発言をする。 ・実習生の話を聞く。	○まとめ ・実習生が模造紙のカタツムリを見ながら、「カタツムリさん、とっても素敵になったね〜!」と言い、一緒に喜ぶ。 ・カタツムリ役の実習生が「みんなのおかげだよ!これでお友達とパーティーに行こう!どうもありがとう!いってきま〜す」と言い、ダンボールを持ちながら退席する。 ・実習生が「カタツムリさん喜んでくれて良かったね!」「カタツムリさんパーティー楽しんでたね!」等達成感を感じられるような声がけをし、今日の活動について自由に振り返ることのできる時間を設ける。 ○片付け ・材料の入った箱を回収する。 ・先生に引き継ぐ。

②改訂版(下線は、変更箇所。筆者加筆)

6月16日(火)	3歳児 あんず組 25名	主な活動	かたつむり作り
ねらい	・様々な素材を使って自由に発想する楽しさを感じる。 ・みんなで一つのものを作る楽しさや達成感を味わう。	内容	・紙皿を「かたつむりの殻」に見立て、様々な素材を使って装飾する。
時間	環境構成	予想される子どもの活動	保育者(実習生)の援助・配慮
10:15	別紙 絵①参照 【準備するもの】 ①・のり ・紙皿25枚+予備10枚 ・装飾材料(折り紙、線、フラワーペーパー、毛糸をテーブルごとにあらかじめ分けておき、箱に入れておく。)	○導入 ・実習生の真似をしながら手遊びをする。 ・「なんだらう。」と言う。 ・手で眼鏡を作り、覗く。 ・「パーティーだ!」「みんな頑張って!」等発言をする。 ・「カエル!」「ミミズ!」「てるてる坊主!」「泣いてる!」等発言をする。 ・手を戻す。 ・「ケーキ置いてあったよ!」「綺麗だった!」等発言をする。 ・カタツムリに注目をする。 ・実習生とカタツムリの会話を聞く。	○導入 手遊び「あめぼん」 ・子どもが参加しやすいように、大きな声と動きを心がける。 ②・実習生が「誰かがパーティーをしているみたいだよ!覗いてみよう!みんな手でメガネ作って〜!」と言い、メガネのジェスチャーをする。 ③・実習生が「雨の日のお友達がパーティーをしているみたいだね。どんなお友達がいるかな?」と言う。 ・実習生が「よし、じゃあもうメガネはおしまいにしようか。」と言い、子ども達が手を戻したのを確認した後、実習生はパーティー会場の絵を片付ける。 ④・実習生が「パーティー楽しそうだったね〜」「パーティーで何か美味しいもの食べるのかな?」と言ったりして、子どもとパーティーについて話す時間を設ける。 ⑤・実習生が「誰か助けてー!」と叫びながらカタツムリのペーパーサートを出す。 ・実習生が「カタツムリさん、どうしたの?」と聞く。 ⑥・カタツムリ役の実習生が「これからパーティーに自分のお友達と来たんだけど、友達パーティーに行ったことないからどんな衣装を着たらいいのかわからなくて困ってたんだ。だから、こ

10:25	別紙 絵③参照 【準備するもの】 ・のり ・ポンド5個 ・紙皿25枚+予備10枚 ・装飾材料(折り紙、線、フラワーペーパー、毛糸をテーブルごとにあらかじめ分けておく。箱に入れておく。)	・カタツムリさんかわいそう。」「助ける!」等発言をする。 ・実習生と、カタツムリ役の実習生の会話を聞く。 ・「カタツムリさんたくさん来た!」等発言をする。 ○製作 ・保育者に注目する。 ・どのようなものを使って作るのかを自分達で想像する。 ・「カタツムリさん来た!」等発言をする。 ・「かっこいい。」「面白い。」等発言をする。 ・「できる!」と言う。 ・紙皿がカタツムリの殻の部分であるということを確認する。 ・「わかった!」等発言をする。 ・のりを取りに行く。 ・自分の順番が来るまで待つ。 ・説明を聞く。 ・材料に注目する。 ・「分かった」と言ったり、聞く。 ⑦・子どもがかわいそうに、自分として自分の部分にカタツムリの形をした両面紙を、両面テープで貼っておく。	こにみんなに動いてもらえないかなと思っていて助けてもらいたかったよ。」と言う。 ・実習生がカタツムリに向かって「もうだったんだ。それは大変だったね。」と言った後、子どもたちに向けて、「みんな、カタツムリさん達のことを助けてあげない?」と言う。 ・実習生が「よし、カタツムリさん、私達に任せて!」と言う。そして、カタツムリ役の実習生が「本日はありがとうございました。それじゃあ、みんなも帰ってね!」と言い、25匹のカタツムリの絵が描かれた模造紙を出す。 ○製作 ・実習生が「私にいい考えがあるんだ!」と言い、紙皿を子ども達の目の前で簡単に装飾する。その後、「カタツムリさんちょっとこっちに来て〜!」と言う。 ・実習生がカタツムリのペーパーサートを実習生の近くに出す。 ・実習生がカタツムリの殻の部分に、先程装飾した紙皿を貼る。 ・カタツムリ役の実習生が、「わあ、かっこいい!」と言う。 ・「みんなもこんな風にカタツムリさんの殻をオシャレにできるかな?」と聞き、合わせて理解できているかも確認する。 ・実習生が、「材料を貼るにはのりが必要だから、テーブルごとにお道具箱からのりを分けてきてね。」と言う。 ・全員がのりを取り着席したのを確認し、再度製作の説明を簡単に行なう。 約束事: ・材料はみんなで仲良く使う。 ・のりやポンドで手が汚れたらおしぼりで綺麗にする。 ・使わない材料は箱に戻す。 ・時計の長い針がカタツムリさんを産したら製作を終える。
-------	---	---	--

教員から指導案への講評・配慮点

- 全体的にとってもよくできています。特にねらいがよい。
- 導入・製作の活動は子どもの欄に書き込む。
 - ①カタツムリの甲羅とは表現しないので、殻と書く。
 - ②カタツムリや雨の日のものなどのBGMを流すなどの雰囲気づくりをする。
 - ③模造紙の絵をパーティーの絵にする。
 - ④導入時からカタツムリがパーティーに行くという設定でペープサートを作ってみる。カエル、ミミズも同様に。
 - ⑤みんなで作り上げる～のねらいがあるので、みんなでパーティーに行きたいことも子ども達に伝える。
 - ⑥のりを使用するならおしぼりなどを用意する。
 - ⑦時計の針が9を指したらという表現は6月の3歳児には難しいかもしれないので、時計の9のところにカタツムリのマークをつけるなど、子ども達がわかりやすい工夫をする。

資料7 「相談手段・所要時間のアンケート」

・「ペアと相談する時はどのような手段を使いましたか」(複数選択可)

LINE	電話とLINE	LINE とその他 (ドキュメント・Zoom)	電話	電話とLINE と Gmail	その他
63.6%	27.3%	3%	3%	1%	1%

・「指導案完成までにどのくらい時間がかかりましたか」

「授業時間外も使った人はどのくらいの時間がかかりましたか」

		30分未満	30分くらい	1時間くらい	2時間くらい	2時間以上
授業時間外	69.7%	9.7%	16.7%	37.5%	15.3%	20.8%
授業時間内	30.3%	—				

〈振り返りレポートより学生の声を抜粋〉

○良かった点

- ・1人で考えて書くと、言葉が同じ表現になりがちだったり気付かないことが多いですが、ペアの意見を聞くことで新しい表現の仕方や気づきがありました。「そんな言い方もできるんだ!」「そこを具体的に書くとわかりやすくなるんだ!」と今後の指導案の書き方に活用できる学びがありました。
- ・相手と考えることによってアイデアが膨らんだり、工夫したほうが良いところなど意見交換が出来たので、刺激を受けました。
- ・お互いの良いところを合わせ、できない部分はカバーしあえるそれがペアでの作成の良い部分でした。

○課題となる点

- ・オンラインでの作成はやはり難しかったです。相手の考えていることを読み取るのはかなり難しいことなんだと学ぶことができました。

【考察】

指導案作成後のアンケート結果より相談手段と作成に費やした時間についての詳細が捉えられた。相談手段の多くは日常でも頻繁に活用されている LINE であり、学生にとって最もスムーズに連絡が取り合える手段だと考えられる。Zoom, Google Meet などの手段は、通信環境の制限や操作に不慣れなこともあり、学生には取り組みが難しかったとも考えられる。アンケートの相談手段に対しての質問項目が、担当教員側と学生側の捉え方の違いがあり、担当教員側は、LINE を文字だけとして捉えていたが、学生側は通話と文字の両方で捉えることもあった為、アンケート結果にそのことが反映された。また、実際に発表することで、相手に理解しやすい指導案の内容を説明する方法を学び、これから保育者として子ども達とともに活動する上での参考になったと示唆される。指導案作成と発表を通じて、授業のねらいとしていた「指導案を作成する中でコミュニケーション力を養う」ことについては、振り返りレポートにもあるように、互いの良さを認め合うことや自分の課題を見つけるきっかけにも繋がり、良い刺激や学びの場となったと考える。

発表時、教員側のみが指導案を見ていたが、学生側にも指導案を共有できると、より学びが深まったのではないかと考える。また、発表後に他の参考となる指導案を共有し、さらなる学びへと繋げた。これは4・5段階にも言えることである。

○4段階「個人で部分実習の指導案作成」、5段階「個人で部分実習の指導案発表」

【授業の取り組み】

1～3段階の学びを基に、個人で「教材を使用した設定保育内容」と「教材を使用しない設定保育内容」の2種類の指導案を作成した。授業のねらいとしては、「1～3段階での学びを基に立案力・実践力を養う」「子どもの気持ちを体験し想像力を養う」ことを主として計画した。

4段階の「指導案の作成」は、原則としてパソコンでの作成を予定していたが、インターネット環境が整っていない学生のために、こちらも1～3段階目と同様にあらかじめ送付した手書きでも作成できる指導案用紙を使用することも提示した。取り組み方については、動画アプリケーション Google Meet と Google スライド資料(資料8)を用いて説明を行った。

5段階の「発表」は、動画アプリケーション Google Meet を使用した。模擬保育として保育者役と子ども役に分かれ、5分間で活動のポイントとなる部分の発表を行った。Google スライド資料(資料9)を用いて、相手にどのように映るか等の発表方法にも十分配慮していくことを指導した。発表後は、担当教員より講評を行い、他の学生は、発表を見て、感想(気づいたこと・学んだこと)を提出した。

最後に2・3段階目同様、個人部分実習指導案例・教材(資料10・11)を提示し、更なる学びに繋げた。

資料8 Google スライド資料「個人で部分実習の指導案作成の指導」

指導案は2種類作成しよう！

○教材などを使わずにできる内容と教材を使ってできる内容で2つ以上作成してください。

教材なしを1つ、教材ありを1つ作成してください。

教材ありの方は実際に作品を発表してもらいますので、教材の作成もしてください。

先日郵送した色画用紙などを使用してもいいですし、その他の物を使用して作成しても構いません。

ペーパースーツ、手作り紙芝居、エプロンシアター、その他、子どもたちに見せたい物・作りたい物を作りましょう。

(皆さんの希望する材料を送れずごめんなさい！)

1. 発表時間

持ち時間は一人10分です。

そのうち発表できるのは5分と考えてください。

ですから、10～15分の指導案を考えていますので、発表するのは導入・まとめを抜かした主活動のみの発表と考えていてください。

事前に練習した時にどのくらい時間がかかるか計っておくと良いでしょう。

2. 発表する指導案

発表するのは教材ありのものです。

実際にカメラの前で作った教材を見せながら発表してください。

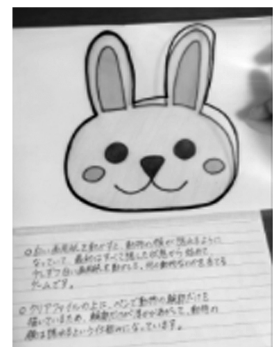
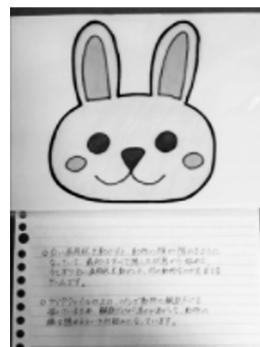
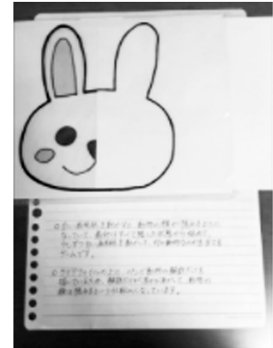
3. どのように発表するのか

発表は前回のような指導案の説明ではなく、子ども達の前で発表しているつもりでしてください。イメージは模擬保育に近いかもしれませんね。発表を見ているクラスメイトの皆さんは子ども役になって、発表者が何か問いかけた時にはできるだけ声を出して反応してあげてくださいね。

子ども役は発表者以外に見ている人が少なくとも2人いるはずですし、もちろん、秋山・森川も積極的に声を出しますので安心して発表してくださいね。

資料10 「個人実習指導案例」

7月 1日(水)	5歳児 年長 組 20名	主な活動	ゲームあそび「動物クイズ」
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな動物の特徴を知る。 図の中を想像することの楽しさを知る。 正解したときの達成感を味わう。 	内容	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな動物の顔のパーツが描かれたカードを提示し、何の動物が隠れているかを子どもたちが当てるゲーム。
時間	準備・構成	予想される子どもの活動	保育者（実習生）の援助・配慮
10:15	<ul style="list-style-type: none"> 机を1つ用意し、クイズカードを机の上に置く。 座り方は自由 	<ul style="list-style-type: none"> 実習生の真似をして手遊びを始める。 歌が終わっても、ずっと様子を見ておける。 「はいーい」や「おでる」など、実習生の問いかけに答える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●導入 <ul style="list-style-type: none"> 手遊び「こぶたのさんぽ」をやる。 「みんな動物のまねっこ上手だね」と声をかける。 他にも動物がいて、その動物は鼻が少し長い星で隠れているということと鼻をたたく音で、みんなどの動物さんが当てられるかを当てる。 ●動物クイズ <ul style="list-style-type: none"> 「これはどんな動物さんの、わがわが答えてみてね」と声をかけ、1枚目のカードを出す。 今だけ動物が見えるように画用紙をずらしたり、その動物の特徴を伝えたり、子どもたちの反応に合わせてヒントを出す。 同じように2枚目、3枚目と続ける。 最後にクマと同じ形のクマのカードを出し、形が同じでもクマではない他の動物を想像できるように工夫する。 子どもたちの反応に合わせて声をかける。 ●まとめ <ul style="list-style-type: none"> 「みんな、いろいろな動物さん、答えてくれたかな？」と問いかける。 クマとカエルのように同じ形でも違う動物がいるということ伝え、「みんなも動物の特徴をよく観察してみよう」と声をかける。 ●片付け <ul style="list-style-type: none"> 机・便、たカードを片付ける。 ●実習終了
10:20	<ul style="list-style-type: none"> 1枚目のカード：ウサギ 2枚目のカード：サメ 3枚目のカード：クマ 4枚目のカード：ブタ 5枚目のカード：カエル 	<ul style="list-style-type: none"> どんな動物が隠れているのか、クマの鼻が隠れている。 実習生の問いかけに「はい」と答える。 いろいろな動物の名前を答える。 正解して喜ぶ声がある。 答えが外れて悔しがる声がある。 「クマと形が同じ動物は何ですか？」と考える。 「カエル」と即答する声がある。 「はい、答えた。」や「簡単だね。」と、実習生の問いかけに答える。 	
10:30			



資料 11 「学生が作成した保育教材」



〈振り返りレポートより学生の声を抜粋〉

○良かった点

- ・ 個人でやることなので、当然最後の誤字のチェックや書き方の間違いがないかなど書くのも確認するのも自分なのでその責任をしっかりとって作成することを学んだ。
- ・ ここまで段階を踏んで学んできたからこそ、ようやく1人でも指導案を考えられるようになりました。いきなり指導案をつくり出すと出されたらできなかったと思います。
- ・ 考えていることと実際に行うことではちがう部分があったり、発表することでしか気がつかないこともあったため、頭の中で考えるだけではなくいろいろなことを試して実際にやってみることが大切だととても感じました。物を作るときには子どもがどのようにしたら見やすいか、などひとつひとつ考えることが大事だと思いました。
- ・ 実際に子どもたちに話すような感じで発表したので、実習に行く前に良い練習の機会になったと思います。また、他の人の発表を見て、展開の仕方だったり、子どもたちへの話し方や話す言葉選びなど参考になる点が沢山あり、とても勉強になりました。
- ・ 他の人の発表を見ると、子ども役になることで子どもの気持ちにもなれました。

○課題となる点

- ・ 子どもの前でやるのとみんなの前でやるのとでは全く違ってゆるやかな雰囲気での発表になってしまったので実習に行った時にどうなるのか不安。

【考察】

指導案作成においては、振り返りレポートにもあるように、自分で作成した指導案に対しての意識の高まりや1～3段階の学びの成果が発揮されており、授業のねらいとしていた「1～3段階での学びを基に立案力・実践力を養う」ことに繋がったと考える。

発表では、短時間ではあるが模擬保育として子ども達に向けて保育する気持ちで発表することにより、年齢に応じた表情や言葉の表現・教材の選び方や見せ方等の工夫が必要であることに気づくことができていた。さらに、オンライン上ではあるが子ども役となって模擬保育に参加することにより、子どもの気持ちに近づくことができ、この授業のねらいとしていた「子どもの気持ちを体験し想像力を養う」ことに繋がった。このことは、新たな課題発見にも繋がり、学外実習前の心構えや自信となったと考えられる。一方で、振り返りレポートにもあるように、学生らは子ども役になりきれない・子ども役として見ることができないという模擬保育の難しさに直面した。模擬保育の取り組みは、オンライン・対面どちらでの実施においても担当教員らの今後の内容検討が必要となる。

IV. 全体的考察と今後の課題

〈振り返りレポートより学生の声を抜粋〉

○良かった点

- ・少し見本がある状態から自分で考えて書き、2人で意見を出し合いながら書くという順を追った作成ができた。おかげで、自分の課題に気づくことができたり、他の人の発表を参考にしたりしながら最後の個人指導案作成にじっくり取り組むことができたので、とてもやりやすかったなと思いました。
- ・いきなり全部の指導案を一人で書くには書く機会がなかったため不安でしたが一つ一つ難易度を上げていくことによって分かりやすかったしこういう言葉がけが思い浮かぶよなと自分の考える幅も増えた気がして指導案かけるという自信につながりました。
- ・先生方の顔を見て授業を受けることができてなんとなく不安がなくなって頑張ろうと思えたのでやっぱり顔が見える、表情が見えることはすごく大切なことなんだなと思いました。
- ・保育は、人と人との繋がりが大切になるものだなと今回とても感じました。発表で表情も画面越しではわからなく、反応もワンテンポ遅れて聞こえたりしていて、直接の人と人との関わりがこんなに素敵なものだったのだなと思いました。だからこそ、実習で実際に子どもと関わることが重要でそこでしか学べないことがあるのだなと思えました。
- ・ただただみんなの発表を凄いなと思って見てた。人数の多いクラスの良さを感じた。ここ真似したいと思うことが沢山あった。また人を見て、自分ならこうして発表してみようとか、実習に向けてためになった。

○課題となる点

- ・同じペアの子と連絡は取れるが会わない分、中々、意見をまとめたり、言葉だけで伝えることの難しさを感じた。
- ・すぐ質問したいことがあったときに質問できない環境だったということが、とてもやりやすかったとはいえない点。
- ・手書きで書く機会が減ってしまい、実習の時の指導案や日誌が上手く書くことができるか不安。
- ・人とのコミュニケーションが電話やLINEなどSNSだったのでやりづらかったです。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、2020 年度前期をオンライン授業で行うことを余儀なくされ、演習系授業を担当する教員としてシラバスの内容での授業進行は不可能であり、どの様に授業を進めていくかについて短期間で検討した。結果、授業の基本である複数人での指導案の立案経験を中心に進めることとした。

演習系授業を例年通りの授業内容により近づけるため、1～5 段階による指導案作成を実施した。学生の授業評価は、「とてもやりやすかった：50.5%，やりやすかった：45.5%，やりにくかった：3%，その他：1%」という結果であった。振り返りレポートには、『自信に繋がった』『考えの幅が広がった』『発表をたくさん見ることができ、他の学生からの学び・吸収が多かった』という声が多くみられた。一方で、オンラインでの環境によりコミュニケーションのとり方や手書きの機会が減ったことでの「やりにくさ」を感じる学生もいた。

指導案作成に対して、難しさ・苦手意識を感じている学生は多いが、段階を踏んで指導案作成を経験していったことにより、一つひとつの作成方法に対しての理解が深まり、発表などを通して多くの学生からの学びが良い刺激となっていた。また、指導案作成で見つかった自己課題を次の段階での指導案作成に活かしていくことで、自分自身の成長を目に見えて実感でき、自信にも繋がっていたと考える。しかし、知識はあっても、実践経験の積み重ねが少ないと不安になるという学生の声もあった。自ら実践して、成功・失敗体験を繰り返し、振り返りを重ねることで、自信へと繋げていけるものとする。

オンライン授業に対しての知識が不足している中で学生同士・担当教員が身近に感じることができ、少しでも対面授業に近い動画アプリケーション Google Meet での授業を試みた。振り返りレポートにもあるように、多くの学生がオンライン上ではあるが担当教員や友だちの顔が見える・声が聞こえることでの安心感を持ち、学びを続けていく励みになったと感じていた。一方で、相談・発表時に反応が見えず戸惑う声や、顔が見えないことで自分の考えを伝えやすいという声もあり、捉え方には個人差があった。一人ひとり捉え方は異なるが、保育の場では、子どもや職員同士、更には保護者などと直接関わり、信頼関係等を築いていくことが重要である。その為、顔を合わせ、相手の表情や反応を見て関わり方等を学んでいけるような授業方法を取り入れていくことを今後も検討していく。

また、学生・担当教員共に初めての取り組みの為、通信環境の制限や使用方法(提示方法)の難しさに直面した。パソコンでは、同時に複数の資料を閲覧でき、スムーズに入力できていたが、スマートフォンでは、1つの資料しか見ることができない・入力できない等、支障があった。その為、事前に紙媒体での資料を送付する等、考慮していった。授業方法では、原則として動画アプリケーションを利用した双方向で行ったが、口頭で伝えるだけではなく、通信環境の制限がある学生や顔が直接見えない分、資料での提示も考慮していく必要があった。今まで口頭で伝えていた内容を文字で伝えることは、表現の仕方や提示方法等難しさもあったが、学生の反応等を基に、より伝わりやすい授業展開となるように試行錯誤して、授業を進めていった。

オンライン授業を体験したことで、学生・担当教員共に、対面授業で子ども・学生・教員など他者との関わりから多くのことを学んでいたことを実感した。さらに担当教員としては今まで当たり前に行っていた授業が実施できなかったことで、演習系授業での実践体験の必要性を再認識することができた。

今後も突発的な事態が起こり得る可能性は十分にある。その中でも、学びの機会を損なわず、どのような状況においても対応できる授業を計画していく必要がある。感染予防対策を十分に行い、オンライン・対面授業両方の特長を取り入れ、より多くの実践体験ができる授業の展開を今後の課題としていきたい。

V. 参考文献・資料

1. 秋山ゆみ子・星信子・大澤亜里・大西道子(2017)実習事前指導としての指導実習—実習力アップに焦点をあてて—
2. 秋山ゆみ子・井口美和(2016)実習力アップにつながる実習事前指導—グループによる実習指導の場合—日本保育学会第 69 回